

摘心がタバコに及ぼす影響について

後藤 亨*・中村 宜周*

GOTO, T. and NAKAMURA, G.
Effect of Topping on Tobacco.

摘心は従来タバコの葉肉を充実させるため行っている作業であるが、最近の嗜好の変遷、更に品質の観点

*日本専売公社 鹿児島たばこ試験場

も新しい角度から再検討すべき段階になり、摘心にと
もなう量的、質的な変化を MH の影響を加味して調
査したのでその概要を報告する。

方法及び結果

摘心（標準心止）と無摘心（開花放任）のそれぞれに MH 撒布，無撒布の両区を設けて，葉の乾重及び収量構成要素，内容成分について比較検討した。

収量面からみると，摘心することにより上位葉の葉面積は拡大するが，むしろ単位面積重の増大により乾重がふえる。また MH 撒布によつて収量が増加することは既に認められている通りであるが，開花放任区の乾重低下とともに，これに MH をかけた場合の著しい乾重増加が目立つた。

内容成分では，開花放任させたものは中，下位葉のチッソ含量が10%前後少く，また MH 撒布区は若返りを起した心止・MH 区の上位葉を除き，いずれもチッソ減少の傾向がみられた。

ニコチン含量は摘心により著しくふえることが大きな特長である。また MH の関係は，摘心区で MH 撒布によるニコチン含量の低下がややみられたが，開花放任区では逆の結果を示した。これは MH 撒布により，その後の開花登熟が阻止され，あたかも摘心したのと同様な生理的役割を果したためであろう。

なお根とニコチンが密接な関係を持つことが本試験

第 2 表 内容成分の比較 (対乾物%)

項目	チ ッ ソ				ニコチン				炭水化物			
	心止	心止 MH	開花放任	開花放任 MH	心止	心止 MH	開花放任	開花放任 MH	心止	心止 MH	開花放任	開花放任 MH
上位葉	2.03	2.52	2.25	1.97	3.80	4.44	1.01	2.66	41.5	45.3	31.2	46.7
中位葉	1.97	1.77	1.85	1.61	3.67	3.34	1.17	1.55	41.0	45.9	38.3	47.1
下位葉	1.80	1.70	1.59	1.41	2.83	2.71	0.94	1.14	39.7	40.6	37.8	39.0

でも察知され，根重とニコチン含量の相関性も極めて高かつた。

炭水化物含量は摘心によつて増加するが，むしろ MH の影響の方が大きく，MH 撒布区では摘心，無摘心の含量差がみられない。

第 1 表 葉重の比較

(1株当り乾重)

葉位	処 理		開花放任	
	心 止	心 止 MH	開花放任	開花放任 MH
	gm	gm	gm	gm
頂上位葉	31.3	35.8	3.0	3.8
上位葉	27.6	31.2	20.6	29.6
中位葉	16.5	16.4	22.6	27.2
下位葉			16.9	17.5
計	75.4	83.4	63.1	78.1
比 数	100	111	84	105

備考：地上葉数 15 枚の株を供試，頂上葉は第 1 花枝より 2 枚目まで，上位葉 3~6 枚目，中位葉 7~10 枚目，下位葉 11~14 枚目。

結 び

以上を総合すると，従来は葉の充実という点から摘心は早い方が，程度は深い方がよいと考えられていたが，開花放任しても MH 撒布によつて葉もよく充実し，かなり従来の摘心に代るような効果を期待できるのは興味深く，また開花がニコチン含量を低下させる

といった利点等より，MH を広く使用している現在，開花無摘心といった飛躍は無理であろうが，少くも摘心の時期を遅らすなり，浅止をする等の操作が考慮されてよいのではないと思われる。